

## 「学会員のコスト・ベネフィット」を考える

藤井 聡

### 書くべきか書かざるべきか

この度、ミニ特集「土木学会入門」における「学会員のコスト・ベネフィット」というお題で原稿依頼を頂戴した。その企画書に目を通すと「学会員にとって学会は利便性のある機関かを問う」「会費バランスシートを利用した記述」「お得で便利な学会」なる文字が踊っている。

やれやれ——。

私自身、土木学会に入会したのは学生の頃で、助手の先生から「おまえらこれに入っておけ」というセリフを真に受けて是非も無く入会したのだった。その時以来、土木学会員であることが「お得」なことなのか否かとか、そのコストやベネフィットなるものを考えた記憶は一度もない。多分「故郷で生まれたことの利便性」だの「あなたの長男さんが生まれたことのベネフィット」等を問われれば、誰しもが困ってしまうのではないかと思う。

とは言いながら、原稿の依頼を頂戴してしまった。

無論、それは私にはちょっと——、と当初は抵抗して見せたものの、是非にと依頼され、むげに断ることもできず、引き受けてしまった。

例えば、心理学なる学問では人助けの気持ちや恋愛感情を徹底的に分析しているのだし、家族社会学なる学問ではそれこそ家族におけるコスト・ベネフィットをまとめあげて近代家族を分解してみせたりしている。そんなことを考えれば、学会員のコスト・ベネフィットを論じてみせることは不可能ではない、のだろう。「勘定者は、すくたるる」(損得勘定ばかりするよう<sup>やから</sup>な輩は、スポイルされてしまうだろう)なる武士道の言葉があるくらいのもので、「勘定」することの後ろめたさは拭えない、のではあるが、それが皆さんのお役に立つとおっしゃるのなら——、と自らを鼓舞しつつ、誌面の範囲で学会員のコストとベネフィットを考えてみようと思う。

### 「オカネ」の話

言うまでもなく、コスト・ベネフィット分析の基本は「オカネ」の話である。

まず会員の「コスト」についてだが、毎年払い続けているのだろうが、いくらなのか全く記憶にない。最近インターネットなるものがあって実に便利だ。調べてみたら、正会員は一月千円、学生員は五百円とのことだった。

一方「ベネフィット」についてだが、同じく土木学会のホームページに丁寧にリストされている。それをまとめると、主なものは次の3つようである。

- a) 毎月の**土木学会誌**の無料購読。
- b) 図書や雑誌(論文集)の購入費や海外の学協会入会費の**会員特別割引**。
- c) 発表会やシンポジウム等の**各種イベントへの参加・発表と企画**

まず、a)の「学会誌」だがこれは定価が1800円。その一点でベネフィットが凌駕している、と言えなくもない。b)の会員特別割引だが、言うまでもなく書籍を購入したり海外の学協会に入会したりする機会が多い程そのベネフィットは大きい。例えば、学会の書籍は1割引きで論文集は3~4割引き程度で購入できる。最後にc)だが、例えば「全国大会」の参加費は半額(1万円

割引)になる。

これらを踏まえてバランスシートの一例を書くと、表1の様になる。

表1 一年で「2万円」以上もお得な学会入会

	会員	非会員
入会費	¥12,000	
学会誌購読	¥0	¥21,600
論文集購読	¥4,000	¥6,116
全国大会参加	¥10,000	¥20,000
学会出版物購入	¥4,500	¥5,000
合計	¥30,500	¥52,716

注：論文集を購読し、全国大会に参加し、5000円分の書籍を購入する学会員の場合約2万2千円のベネフィットがある、という計算になる。

### 「実質的」な話

表1を見れば、一応オカネのことだけを考えても、土木学会入会はお得ですよ、ということになる。しかし、多くの読者にとってこの主張は今ひとつ説得力がないだろう。実際には「学会誌の価値」は皆さんのご判断によるのだし、全国大会や論文集に興味が無い人もいるだろうからである。

当たり前のことなのだが、実を言うと学会の真のメリットは「オカネ」では語り尽くせないところにある。

例えば、世の中には、地震や防災、過疎・過密、交通混雑や景観問題等、ありとあらゆる社会問題がある。そんな問題を目にした時、どんな人でも一度くらいはその問題を何とかしたいと願ったことがあるだろう。そんな時、もしもその願いを持つ人間が世界中で自分一人だけだったとしたら、大いなる絶望感に苛まれるだろう。しかし、その願いを共有する人達が集まる場があるのなら、その願いが叶う可能性は大いに増進するだろう。そして、その願いが叶わずともその問題が幾ばくかでも解決の方向に近づくのなら、その時の喜びたるや何物にも代え難いものとなる。その「喜び」こそ、より厳密に言うなら、その喜びが得られるかも知れぬ「可能性」を手に入れることこそ、土木学会に入会する最大の「ベネフィット」ではないかと思う。

少し抽象的に言い過ぎたかも知れない。具体的に言うなら例えば次のようなことである。

ある問題を解決するにあたってある技術(あるいは、アイデア)を思いついたとしよう。その時、その技術を社会に問う場が土木学会によって与えられるのである。仮に自ら技術を思いつかずとも、土木学会に入会すればそうした技術を知ることができるかも知れない。場合によっては、その技術の仔細は分からずともその有用性が理解出来る時、自ら手の届く範囲でそれを具体的な行政と実務に取り入れていくことができるようになるかも知れない。こうした「可能性」を手に入れることこそ、土木学会入会の最大のメリットではないかと思う。

そんな可能性、何の「得」にもならないじゃないか、と言う人もいるかも知れない。しかし、その人は気づいていないのである。我々の自然な感情の中に人の役に立ちたいという素朴な思いが存在するという「事実」を——。土木学会の中で色々な方々と付き合っていけば、それが「事実」であることを気づかされること、枚挙に暇<sup>いとま</sup>がない。これは何とも有り難い話である。「世の

中, ひょっとするとまだまだ捨てたもんじゃないのかも」と思えてくる. これもまた, 何にも代え難い土木学会の「ベネフィット」なのではないかと思う.